



備えあれば憂いなし—次に来たるべき災害に備えて、6月15日、愛知県で防災訓練が実施されました。初夏の日差しがまぶしい青空の下、シビックフォースは、NPO「オールラウンドヘリコプター」と亀田総合病院と協力して、医師を乗せたヘリを被災地に急行させる訓練を展開しました（6月15日撮影@愛知県岡崎市）

次の大規模災害に備えて

「発災翌日に最大430万人が避難所へ、270万人が親族・知人宅などへ避難。家庭内と公的備蓄で計6340万食と13億3000万リットルの飲料水があるが、1週間で9600万食、飲料水1億4500万リットルが不足する。被災地内外での買い占め、道路の渋滞や寸断で配送が困難になる…」

——これは、南海トラフ地震と首都直下型地震による被害状況を想定した数字の一部です（国の有識者会議より。2014年3月）。

死者・行方不明者1万8000人以上におよぶ甚大な被害を出した東日本大震災発生以降、関東地方をはじめ日本全国で地震活動が活発になっています。西日本でも活動期に入り、例えば、静岡県の駿河湾から九州東方沖まで続く深さ約4000メートルの海底のくぼみ（南海トラフ）では、マグニチュード（M）7.8級の地震が繰り返し起きていられるとされています。

国が発表した最大規模M9.1の地震の被害想定では、最悪の場合、死者32万人以上、負傷者約62万人、経済的損失約220兆円に上るとし、今後10年間の対策で、この被害の数字を8割減らすとの目標を掲げています。

この目標を達成するため、具体的な対策が各地で求められている一方、国や自治体ができることには限界があります。多くの人が助かるための対策の基本は、日本で暮らす一人一人が防災への意識を高め、「減災」に向けて備えることです。

東日本大震災から3年4カ月が経ちましたが、被災地の復興はまだ道半ばです。今一度、自然災害の恐ろしさを認識するとともに、次の大規模災害に向けて行動を起こすことが大切です。シビックフォースは、東日本大震災で培った経験と教訓を生かし、今、次の災害に向けた準備に力を入れています。

今月のマンスリー・レポートでは、6月15日に愛知県で実施された防災訓練と、「民軍連携」の一環で、6月20、21日に岡山県で開催された自衛隊主催の合同訓練についてご紹介いたします。

愛知県での訓練は、東日本大震災の被災地支援活動でシビックフォースと連携したNPO「愛知ネット」が主催。シビックフォースが愛知県で民間主催の訓練に参加するのは震災後初となります。

Monthly Topics

Civic Force の複数の事業の中から、注目のトピックをお知らせします。

亀田病院、ARHと連携 空から医師を派遣



地域のNPOや医療機関などから約100人が参加し、避難テントの設置や応急手当などの訓練を実施

「1団体ではできないことも、たくさんの人や知恵を集結できれば打開できる」。そんな思いで災害時の支援活動やネットワークづくりを続けてきたNPO「愛知ネット」(愛知県安城市)が、6月15日、愛知県岡崎市で「愛知ネット創立15周年記念事業フレンドシップ防災デー2014」を実施しました。参加したのは、シビックフォースや地域のNPO、医療

機関、企業など9団体約100人。

東南海地震を想定し、各団体の持ち味を生かして、避難用テントの設置や災害救助犬による捜索活動、応急手当、炊き出しなどの訓練を行いました。

このなかでシビックフォースは、宮城県気仙沼市で活動するパートナーNPO「オールランドヘリコプター」と亀田総合病院(千葉県鴨川市)と連携し、医師を乗せたヘリを、気仙沼から同病院経由で被災地に急行させる訓練を展開。3者が連携することで、遠隔地から医師や資機材、物資を被災地に輸送するとともに、空から被害状況を確認しいち早く情報を伝えるこ



とができるようになります。また、今回はヘリの給油訓練も実施し、公的な給油施設のない場所でも給油ができるような運航計画を策定しました。

このほか、民間の遠隔地連携を具体的に進めるためには、初動の機動力が大切です。シビックフォースは、企業との災害時協力のため、事前の協定締結を目指して活動を続けています。

パネルディスカッション@東海地方 災害時の連携のあり方とは



訓練に先立ち、東日本大震災など大規模災害において支援活動を展開した関係者によるパネルディスカッションが行われました。シビックフォース代表理事の大西健丞は、東日本大震災の経験を踏まえ、災害時における民間への効果的運用について説明しました。このほか、亀田総合病院の小松秀樹副院長、愛知ネットの天野理事長などが登壇し、災害支援活動の実績を報告するとともに、東海地方での大規模災害が発生した際の連携のあり方など今後の取り組みについて意見を交わしました。

海外での連携支援を想定 自衛隊の訓練に参加



シビックフォースは6月20、21日、岡山県奈義町にある陸上自衛隊の日本原演習場で開催された災害時連携訓練に参加しました。訓練は、インドネシアのスマトラ島近海で地震が発生し、沿岸の町が大津波に襲われた想定で実施。国際機関、外務省、JICA、米軍NGOなど約20人が、「クラスター会議」の演習を行いました。クラスター会議とは、混乱する災害の現場で支援関係者がスムーズに支援活動を展開するため、保健、衛生など分野別に開かれる会議で、支援のズレや重複をなくすことが目的です。

シビックフォースは、避難民キャンプで物資を配布中という想定で、国連世界食糧計画(WFP)が議長役を務めるロジスティクス会議に参加。空港や港の復旧、臨時倉庫の設置など共有された情報に基づき、要望を伝え、自衛隊や米軍と意見を交わしました。

スリランカ防災事業 ワークショップを開催

アジア各国の災害支援団体と協力して大規模な災害に備える「アジアパシフィックアライアンス」の活動の一環として、シビックフォースは、4、5月、スリランカのパートナーNGO「CHA (Consortium of Humanitarian Agencies)」と協力し、スリランカ南部のハンパントタ県で、初めて防災ワークショップを開催しました。同県は、2004年の津波で大きく被害を受けた地域の一つです。

このワークショップは、防災能力向上を目的に開始した「コミュニティにおける防災能力強化事業」の取り組みの一つで、防災行政に携わる地方公務員など66人が参加。4月には災害救援や人道支援の現場で守られるべき指標「スフィア・ハンドブック」の入門知識を習得したほか、ディスカッションでは政府の防災への取り組みについて議論しました。

また、5月には地方公務員だけでなく、地区の防災委員、村長や若者リーダーなど56人が参加し、洪水や強風といった自然災害から生命や財産を守るための家づくりについて知識を深めました。

合言葉は「1億総レスキュー」

愛知ネットは、防災・災害救援を目的に1999年に設立されたNPOです。豪雨災害や地震などの災害救援活動、インターネットを通じた情報発信などに取り組んでいます。

東日本大震災では震災前からつながりのあったシビックフォースと協働し、岩手県大船渡市、宮城県気仙沼市などに臨床心理士を派遣する心のケア事業を展開しました。

今年6月に実施した「愛知ネット創立15周年記念事業フレンドシップ防災デー2014」



NPO 愛知ネット理事長
天野 竹行 さん

Face to Face

Civic Force の活動は、多くの企業やNPO、行政などの皆様に支えられています。

パートナーからの旬のメッセージをお届けします。



「愛知ネット創立15周年記念事業フレンドシップ防災デー2014」に、大西(右)とともに登壇する天野さん(左)

(P2参照)は、緊急時に企業・ボランティア・NPOなど民間が連携し、緊急支援体制の構築を図る目的で、初めて実施しました。

私たちの合言葉は「1億総レスキュー」。災害時の救難・救助のためには、「困ったときはお互い様」の気持ちで、1億を超える皆が助かることを願い、常日頃から準備、訓練を行い、ネットワークづくりを進めることが大切です。1団体だけではできないことも、たくさんの人や叡智を集結すれば打開できます。また、近隣地域が被災しても、遠隔地への連携が確保されていれば、心強い。こうした知恵・つながり・協働力が、災害時の「生きるチカラ」につながるのです。

平時から皆さんと連携し、災害時に最大限の力を発揮できるように、今後も訓練を続けていきます。

2014年7月11日現在実施中の東北支援事業の一部をご報告します。

中長期復興支援事業

Civic Force では、支援活動の中で見えてきた被災地の課題解決に向けて、2012年夏から「中長期復興支援事業」を続けてきました。各事業の進捗状況をご報告します。なお、本事業の一部は8月末で終了または支援方法の変更を予定しています。詳細は随時お知らせします。 <http://www.civic-force.org/emergency/higashinohon/choki/>

■観光再生プロジェクト

～“訪れたいまち”に向けた官民協働の仕組みづくり
宮城県気仙沼市が復興重点事項に掲げる“観光”の戦略立案をサポート。2013年7月には一般社団法人「リアス観光創造プラットフォーム」の立ち上げに参画。現在HP制作、理事会や部会への参加などを通じて継続支援中

■命をつなぐ翼プロジェクト

～ヘリを活用した緊急医療搬送支援
震災以前から医療過疎が進む沿岸被災地で、医療搬送用ヘリを導入し、高度医療機関へのアクセス改善を目指す。2013年10月の本格運航開始後、要請に応じて患者を搬送。行政と連携した防災訓練のほか、より多くの医療機関などと連携体制を構築できるよう調整中

■緑の“環”プロジェクト

～持続可能な林業と木質バイオマス活用を通じて地域を活性化
木質バイオマスの利用を通じて持続的な社会の構築を目指すプログラム。地元企業やNPOと協力し、個人林業者の育成や木材集積場の運営、地域通貨の試験的利用の面でサポート

■共“還”まちづくりプロジェクト

～地域発・住まいとしごとの創造的復興チャレンジ支援
被災地で生まれたNPOや自治体と協力し、地域の新しいまちづくりや、これからまちづくりを進めていく地域で専門家派遣や人材育成などを支援

■夢を応援プロジェクト

～奨学金 × 地域発の教育プログラムで若者サポート
東日本大震災の影響で就学継続が困難な状況にある被災地の高校生が社会人になるまで、月3万円の奨学金を給付。今夏、社会起業家・NPO研修や奨学生交流会を予定



NPO パートナー協働事業

被災した人々が地域の復興に向けて主体的に取り組む事業をサポートしています。2011年4月からこれまでに37団体と49事業を実施。2014年7月現在、2件の事業を展開中です。 <http://www.civic-force.org/emergency/higashinohon/npo/>

- リアス観光創造プラットフォーム：気仙沼市の観光戦略を具現化するため、パイロット事業などを実施中
- nina 神石高原：福島被災者に対し広島県への集団避難と移転先でのコミュニティ維持再生を支援

東北支援
NOW

奨学生の作文を掲載 被災した学生の「今」

東日本大震災で被災した岩手・宮城・福島3県の学生を、奨学金とサポートプログラムで支援する「夢を応援プロジェクト」。奨学生から届いた作文の一部をホームページで随時公開中です。震災を経験した学生たちの「今」を伝えています。

<https://www.civic-force.org/news/news-1395.php>

スマホで簡単募金 アプリの配布スタート

月々の携帯電話の利用料金の支払いと一緒に寄付できるソフトバンクモバイルの「かざして募金」。100円から気軽に寄付でき、毎月定額寄付も可能です。

6月9日からiOSアプリの配布（無料）も始まり、合わ

せて「かざして募金」登録団体に総額150万円を寄付する「ハートラッピングプロジェクト」（9月30日まで）が実施されています。寄付回数に応じて、ソフトバンクモバイルが追加で登録団体に寄付する取り組みです。

皆様のご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

詳細は左記のとおり。

ダウンロードはこちらから

iOS アプリ



アンドロイド
アプリ



アプリの使い方

①スマートフォンから
「かざして募金」のアプリをダウンロード



②アプリを起動し、
シビックフォースのロゴ画像にかざす



③寄付金額の単位は 100 円、500 円、1,000 円、
3,000 円、5,000 円、10,000 円。設定金額から選択し、
確認ボタンをクリック。

寄付完了！

スマートフォンを使用した募金のプラットフォームは日本初の試みです。アプリのリリースによって、ソフトバンクモバイル以外の方も気軽に募金できるようになりました。

1日1回1クリック

1日1回1クリックするだけでできる社会貢献があります。現在、各企業様のご協力により左記のURLから気軽にクリック募金ができます。

■ユニテッドピープル基金
<http://www.clickbokin.ekokoro.jp/139.html>

■DSCクリック募金
<http://www.psc-inc.co.jp/clickdonation/index.html>

■「gooddo（グッドド）」
<http://bit.ly/17Xr7N3>

■ECナビクリック募金
<http://point.ecnavi.jp/fund/bc/>

※毎月11日前後に発行している
「マンスリーレポート」は、
<http://civic-force.org/news/monthly/> からご覧いただけます。



「次への備え」を 皆様とともに

シビックフォースでは現在、次の大規模災害発生に備え、平時からより多様な企業や団体との連携関係の構築に努めています。法人賛助会員としての活動を、一緒に支えてください。

<http://www.civic-force.org/about/membership/>

1日33円からできること

次の大規模災害に向け、平時から備えておくために、皆様の力が重要です。マンスリーサポーターとして、毎月定額（1000円単位）をご寄付いただく形で、大規模災害にも備えてください。

■銀行：三井住友銀行 青山支店 普通 6953964

■ゆうちょ：00140-6-361805
（上記いずれも口座名義は「コトハサキタシオウジン シビックフォース」です）

■クレジットカード：HD「オンライン募金」をクリックしてください。

https://bokinchan2.com/civicroce/donation/bokin/page1.php?bokin_type=donation